

◆ 解答例



「応用問題3」

◆ 解説

今回の問題は、条件を満たした場合のみに変数を足していき、最終的な変数の値によって最後に表示する言葉を変えています。

度々使用している「と聞いて待つ」と「答え」の組み合わせを使うのですが、今回は間違えた場合の処理を定義しているのが特徴です。

もしも答えが正解ならば「正解!」と言うことに加え、変数「正解数」を1ずつ変えていきます。

答えが定義された数以外（＝不正解）ならば変数「正解数」は変わりません。

2問目終了後、カウントされた「正解数」の値と「もし」ならを使用することで変数「正解数」に応じて問題数の正解数に応じて表示する「と 2 秒言う」をそれぞれ設定します。